# 李太白

下

へ 5
1397
3 上

利
1397
3

明治 年 月 日
武寄

京都帝国大学図書

# 去来抄 下

## 修行教

去来曰蕉門に千変不易の句一時流行の句とあり是を二門とせり変移を一なり不易我志ゝ変化を基とし流行を志ゝ新風を主とす不易は古を宜しく後を叶ふ句なれば千歳不易といふ流行は一時くの変化にてきたるの風を今日の宜しき歳今日の風を翌日小用ゆるなり是一時流行ときたるなり

魯町曰俳諧乃碁とそいふに去来曰詞はいやしくして吟詠
するに品あり歌もまた一なり其中に和あるといふも
また一なり甚しくをわるしも尚俳諧連歌はかるし
とて和なりとわのつゝしまれをもつゝさ
ふ面をいふをするとて詩中歌中旋頭混本歌
中知れぬ事をいひ色をもて俳諧に迷ひて俳諧連歌
といふを忘れたり俳諧をもて文を書は俳諧文なり
歌をよむは俳諧歌なり身を行ひて俳諧の人なり嗟いかに
見を高くして言をやめり人を遠ふをもつゝの俗あるといひ
ちゝとして苦しくかくたり器量自慢あはいふん

連歌の名目をかゝすといふに鉄炮となりとも乱髪となりとも
一家乃風を立て新しく
魯町曰不易の句ハ俳諧乃神
なるといふに去来曰不易の句ハ俳諧乃神
なるといふ一の和歌なる句なる一時乃物数寄なる故ふ
古今に叶へるたとへ
月や柄をさしてはよる紀国の　宗鑑
うぶはいくとしとなり花のよし　貞室
秋の風伊勢の墓ふ形すこし　芭蕉
是等の類ハ魯町曰月を園ふ人をうるも和歌をすすや
去来曰賦比興ハ俳諧のうちにかゝる吟詠の自然なり

吟ずあり〜風雅も終に三月をそる間事なり〜拙数寄とハ
いひなし〜

曽町曰流行の句ハいたに玄来曰流りの句きたのしるしの一つの
拙数寄ありてそやるゆ形容衣裝器物名にいるまて時と
乃そやつまあるものと〜たとへ

むすやこゝは夏まこ〜きの暑さうる

此神久〜〜涼ます

あれハ松ちてこそ〜へまき枝書　松下

涼光肥えゆ光渡るも友る〜なも　常矩

或ハ夏をそあるしい歌書の詞つひみを謡の詞とりるとに

拙数寄ありるあるを笑も一時る流行〜俗とそ月ハ秋上る
人なし〜曽町曰むすやるゆ友にこ〜きとりみを孫あ〜まや
玄来曰孫を歌の一事るて拙数寄るきあ〜乃る故込ると
孫とはうりあるも

曽町曰不易流行其元一なりとそいうあ　玄来曰世事雜〜
〜有情人体まとへていて不易を無為の附流りを
坐卧行住屈伸伏仰乃形同〜〜さ形〜を〜一時くの
変風を之を姿ハ時に替るとい〜とも世為も有為もの〜ハ
同〜人也　曽町曰風を変るハ〜人ありとそいたに
玄来曰本を〜〜〜て来を変る時を或ハ変風を変風

俳諧をとなれ或を離れすといへともたゝ
曽町曰碁より出るとも出さるとをいふに去来曰碁を去
すして解しるかゝむ先あゝ云ふ初れる句一ツ
をあけて扨ゝりはたゝへて先師の風といへとも

貞固ゝ松ゝ門ゝ女ともきほひ
流あり蓮乃葉ゝ雨をうけきしゝ　素堂

うたらを詩ゝ語ゝ又文字の教合ゝるゝも
散花ゝ　たらゝゝめしゝゝゝの夢　幽山
此句を謎なり俳諧歌ゝ謎の神もろ事ゝ先ゝ
俳諧歌体ゝりいとて素しゝゝ

曽町曰先師も碁ゝりおさ皆風体ゝるゝや去来曰奥州行御乃
おいはゝあゝ世ゝ御のゝちに二夫ゝ行ふと乃ゝゝり行御の
うちにも　あゝむさんやる甲の下ゝきりく須とふ句あり
後ゝあなゝ二字を捨らゝゝり是のゝにあゝ異体乃句
ゝもゝゝあき捨ゝふもゝ多ゝ此年のゝゝゝめて不易流行の
教を説給へゝ曽町曰不易流行の事を言続ゝや先師乃
発明ゝや去来曰不易流行ハ事事ゝ渡ゝ迄志ゝれとも
ゝんの先達を成ふ人なゝ　長頭丸ゝ来ゝを送ゝ一神
久ゝゝ滝ゝゝ　角樽や傾けのまふ丑のゝ
をゝ水あけて咲せよ天龍寺とゝゝるまてに吟ゝゝり

世俗人といふものを形のうきものとなづけてその風を
変ずるをもて宗匠師一度もうりうまりうるをもて
破風新風を天下に流りしゝ作りといまゝ此教ふ
きりしゝ作りこれ都鄙乃宗匠達京風を用ひ一旦流く
を起せりといへども又その風をもくたのうゝ抑とゝて時く変ず
つゝ乃をもて先師をもてはめて祇徳乃句体を見つけ不易
乃句をとまる風を時く変ある事をもて流りの句
変ある事をもち教ふ然るに先師常に曰宗因ゆく
んをおくり祇徳の徳を称ずるゝ宗因はけ
中興開山なりといへり

大竹曰不易の句も當時を体をなすゝを是も又流りの
句なるゆゑ也

玄来曰蕉門に不易流行説くあるを或ハ各の一句くのゝを
云説あり是も流行にあるゝ説とも不易流りの
教とゝもいふ体一時く時変風の事也

去来曰俳諧を修行せんと思ひむるより時代く乃風
宗匠くの体を能く考へ知盡へし是我を時を新古
わのゝ分形物なり

去来曰俳諧の修り者ハわのゝ好ゝ風に先達乃句我
一すちに尊ミ学ひて一句くに不審をたゝ雖を捨ふ

毒てのこれ差解するなる句あることいとまなき故あらんと立まし
或ハ功者に尋問むに〳〵我うの流儀ハ上達するにまかせひ
人ハ句も用ハもはなし始より一句〳〵ハ成とあるもの
他方を吟味のこゝちあり自身かさるるこてハ功ハ成ざる
をなれ先師曰今ハ俳諧を日ハあるこ更をつけ席に
のぞんてハ氣稿(サキ)をいを吐毒〳〵公頭を義をへ〳〵作也
支考曰むの〳〵ハ謝諧を如来禅のこと今ハをいをハ
祖師禅乃こと〳〵捺著すれ即轉す
去来曰先師を門人を教ハふまこてを極ふ〳〵平を示〳〵
ハふまは句毎〳〵にをハを念を入る句まをあるを文句ハ



まつよく俳意をたるこれ他〳〵こと也 凡此ハ一句口用こに
十七字をより一字もかろそに長毒てのこれ 蹤諧をを
こに和歌乃一体なり句をををりのをこをを他を人〳〵こをり
をを他をハ氣性を口質をよりてをりあ〳〵これハる
華を迷ふ〳〵をすちなり同門の中をもこに迷をを人今〳〵
先師曰発句ハ形をりすくといいてこ事を上品をす
洒堂曰先師曰発句をハをりをく句二つをいとりあつあて
他をもハをりをあこれあを我ハの人ををあこをあこをを
先師曰護句ハ句ををり合をハ他を出来る句也まををく
を合をる我上手をひあ〳〵をを下手をいふなり

許六曰發句ハ取合て仕立する時を句多く出来るを好ふて
初學好学ふを好ふ也〜功者ニ及ては取合不取合の
論なきあるべし
許六曰發句ハ題の曲輪を飛出て仕立べし〜廓のうちにて
なるを好也自然曲輪乃中ニ成ハ天然ニして希也
去来曰発句ニ曲物の図あるを好ふ也ハ即興感偶
する物を多くハ図あり強て常に案るに図をなくして
多くハ古人の糟粕なり千里ニかけ出す吟ニする時ハ句
ハ高き好ふ也ハ第一等類をあらハ初学の志思ふべし
事也功を積ふ及ては又内外の論なきあるべし風雅俗

白魚曲輪の図なり平歩事を示ハ電ニ徳利さけて飛ぶ
ハ云ハ徳利さけ飛ぶ「名月に皆さのやきを
刺ふ」ハ云ハ皆さのやきを刺ふ駒迄と云〜ぬ
去来曰他門ハ蕉門と異一常〜ニ遠ひあり〜と見ゆ
蕉門ハ景情ともに有ふを吟ふ他流ハ公中ニ巧ふ図
と見えたり「清滝茶屋ハ清滝茶屋ハ出舟小」「鴨川や二度の舟綱ハ新一ツ
元日ハ空ハ雲きに出舟」
とハ云〜〜禁闕ハ蓬莱なり〜洛陽ハ出舟なり〜新
ひ〜月ハ小き事なり皆是細立せ〜〜新〜なり
去来曰蕉門の發句ハ一字不通乃田夫十歳以下の小児ハ時ハ

よりてよぶ句あり却る化門の功者といへる人を見るし
化流をもて流乃切者なるをもて化ハ主体なるを句をもて
しるべしとおもへり

去来曰諧謔を新意を専とすといへども拙なる情を遠ざ
けるをもハあるべき事なり

感時花濺涙惜別鳥驚心或を揺花ちるをんなるべしとて
ふるさとの人の来てもとなくにといへるたゞひなり感時惜別
大文人の見るべき見る一首乃眼也

去来曰諧謔ハ火をも水ゐいひなすと清輔ハい一説を迷ひて
雪乃降る日を汗をかきなりとふるもなるべしとふ

人あり夫を火を水とはなりをもとなるべしいひなすとの心なり
はるを故なり雪の日乃汗なるべしみ一句成能ひるを
ハさもあるべし哭する人を驚ひをしるを新島紙あるべきを形と
たゞのいひをもの影也

去来曰句案ハ二ハあり趣向より入ると又詞道具より入ると
なり詞乃奥より入る人を多く俳句を趣向より入る人を
遅吟寡句也さればと案しるを新信を論る時を趣向より
入るをもとす詞乃をもより入るをハ和歌者流を嫌ふ
とゝ見えたり諧謔をあるべきにまゝハ

去来曰蕉門ハ同巣同竈と云事あり是を前吟の講歌

に入て他は眠句也たとへは竿か長くて物につかへるといふ
句は刀の鐺か障子にさはる或は杖かみしかくて地にとゝかぬ
とはしかゆる也同竈乃句は手かろくおもしろき所を見より
生まれしたるへんは又手柄なり
去来曰句に句勢といふ事あり文に文勢語に語勢あるその
ごとしたとへは門ふるふかるく小糠雪ふるといふ句を先師曰
其あくるなどと小ぬかゆふ譯るといへは能て句勢ありとなり
去来曰句に姿といふ事ありたとへは

妻よふ雉子の身をほそうするすゝ　去来

初ハ此句つまよふ雉子のうろたへて鳴と作り侍りけるを
先師曰去来汝いまた句の姿をしらすや同し事もかくいへハ
姿ありとて直し給へるなり支考か風姿といへるものこれ也
去来曰句に語路といふ事あり句をなす上の事也語路は
盤上を玉のはしるかごとく滞なきをよしとす又其柳の風に
乱るゝかことく優なれるもおもしろからん溝川に去泥の
なかの滞りおもしろくなつきたるはいやしく其中
一句二句は曲をなせるもあるへし夫とても語路の滞るな
きを嫌ふ也
先師曰發句は昔より様々替り侍れと附句は三変にして
古は物付をむかしハ附物を専とす中比は心附を専とす

今年移住箸尓係位とんで頂るをよしとす
杜年曰いるる式箸自ひ移まといつるや
去来曰支考箸あるまを書出せり是をみとりくるとく
るきいひくるいま先師の評をあけてさちん化いわ
くちはいい

赤人乃名をつけ行ちりの嘉　史邦

箸もさいはる合点なるべい　去来

先師曰つりとひ自ひとひ爽ハ去年中三十棒ハ
うけられるきるいなりと悦ひ給ひ爽まわるいて
自ひとひつも移とふもひ自化ハあやけてのるを

無ものの境をるけを冷暖自知乃時をてハ悟ハ嘆
むる事あるの所ハ此句ハ赤人のるもおりるやと行ハ
箸も嘆るをいなりけるを化るをるを名きて化
ふりいるより合点なるいはおつまりとる落
味ひとひ自箸ハいてハひくうとたとを
ふ行梅ハ鶯ふいけをおてるる
月かとて化太刀のるるる式乃よ

先師ハ句をひて教るとて右のるまて土器をおつ者
左ハ手ハて太刀るをるる表似をて語るを行る
一句くに趣のかいるるなる行て言語ハ為いるる式とる

看破せらるべし

杜年曰句の位とはいかゞ事なや去来曰余句ハ位を知
る階る事なりたとへよき句ありとも位為せざれば
先師の意の句をあげていた
上京ハ干菜きざむもうとましき
馬ゐおぬ自ハ肉てうひ市哉
前句き人の妻ゐもあるべし武家町人の下女ゐもあるべし宿屋
同屋ハ下女なりと見てハ位を定めるなり也
細き貝に花見る人の頬を行く
ゐるゐ色ゐ哉 袖ハ海ちひ

前句古代乃人のありさま為なり
白粉をぬりもつ地くろい歯
汲ゐ水ハ袖ハ袖のたきも哉
前句のさま為の女と見る
尼ゐるつる霄乃きぬく
月影ハ襟とやしん乃すゐしを
前句いろゐ乃ハ袖の妻と見る
ふすま乃つんて洗ふあつしを
鳥乃み意ハ乃ゐ袋持せるや
前句町家のうりゐるとて乃ゐ意をまて代き多すべ

くわし致へし

杜年曰面影にて附るとは云いかゝ去来曰うつり匂ひ響は
附様の品也おもかけは附る事也むかしハおほくハ
其事或ハ物にて附たりそれを面影にて附るといふ也

草庵にしはらく居てハ打やふり

いのちうれしき撰集の沙汰

初ハ和哥の奥儀をしらすと附たり

先師曰前を西行能因の境界と見られたるよし

されと直に西行と附んハ手つゝならむたゝ面影にて

附へしとてかく直し給ひぬいかさま西行能因の面影

ならむとなり又人を定ていふ時ハもあらはなるへし

発心の新をしめにいたすゝ山

内藤の頭とも呼人を語る

先師曰いかさま誰そかおもかけなるへしとあり面影の事

支考も書置たり見合すへし

支考曰附句ハ一句に一句也前句附るといふ事も当

一連誹諧においては其場其人其時節等前後の

見合ありて一句に多ハなきもの也

去来曰附句ハ一句に一句也故に誹諧変化極なし

支考か一句に一句といへる事附る場の事なるへし 附る場也

多くなる物也句も一場の内をまいらせ申て

先師曰氣色きいらせてもなく天象地歌人事

草木鳥獸虫魚のおもひ取容みなく多る也

支考曰附句ハ附る物なり今ハ離雜をつゝまるをよしとす

先師の句一句もつゝさるハなし

去來曰附句ハ附さ様と附句ハあるハ病なり

今ハ他者附る事を初人の業のおほえてゝ付く

附さる句多し支人も又少なからぬ人乃いとむ事を納ち

附さる句を咎めハ却るよく附る句を笑ふやゝ多し

ゆゑ也るゝハ音なる事も多し

去來曰附物をつけ又ハ附るを附る事を附る所を

附物ハ成るれ情をひらく附んなるハ前句ハ付用を自ら

なくしてハいつまゝ慶ゆてこの附んハ作無る事也

去來曰蕉門の附句ハ前句の情を引来るを嫌ふ故句ハ

見いるる所場いるるハ人を其事を信をよく見定る故句

をつきちらして附一

先師曰附物をく附る事當時好たゝ人も附物をく附

るゝ心をさ川をゝ附物をく付ゝ付むハ又を極るゝ一

宇庚曰先師十七の附句踏通を伝授し給ふを其日

境の門人の新を依て所方を書出し給ふさしを後く

[illegible]の附方は是[illegible]人の迷ひ[illegible]
拾ひ[illegible]十七ヶ条とゆゝん学えより是を
借文とし[illegible]大津にて[illegible]
路通も甚反古紙拾ひとりて人を教るゆゑ許六曰はすを
称[illegible]は千那法師なり
去来曰附句は行事なくさらくとなるをよしとす巻を
よむに思業工夫しる附句をなむを苦しむる事也
去来曰風は千変万化にしてもの体新く清く柔く
慌なる正く厚く閑なる和なる剛なる解るなつうしく
速なる如此はう〳〵鈍く濁る弱く重く薄く[illegible]

滑らかに軽く騒しく言まかくのごとなは面〳〵但〳〵堅きを純なる
句なを吾面ある〳〵
支考曰附句は句ゆ新言なり附る場ゆ新言あり
去来曰古風の句を用るにも場ゆよりてよりさ純と古風の
まゝはいう〳〵古体にしてゆ今世〳〵有〳〵
先師曰一巻表より名称を一称なんは人なるしうる〳〵
去来曰一巻面を変事ゆ化る〳〵初折の裏うりおこり
表ゆたゆ物数寄も曲もるこ〳〵半より名称の裏ゆうけ
てはさ〳〵くと貴賤ぬ中ゆ化る〳〵末に至ては互に
退屈いてきゝ化る物也折ゆ句あんとすれば却句ゆ

つてお其ゐ物なりさ枕を求くまと吟席いさみあり之
好き句出来んを考理ゑ止るまでまあす好句を思ふ事なれ
とい小事こ
其角曰一巻ゑ歌句九句十句有とも一二句好句あるハ始た
能句をせんと行るつ〳〵た都ゑ不出来なるも折なりいまさ
好句ゑ〳〵むこちハ随ゑ好句を思ふ事
去来曰附物ゑて附ゑ事ゑ尚時曙ひ侍ゑとまあるりを人合
一巻ゑ一句二句あ〳〵んハみな風流なるべし
浪化曰今ゑ雑諧物語ゑを用ゆる事いと去来曰同しくハ
一巻ゑ一二句あ〳〵ま保し猿蓑の中ゑ侍人いりし小侍門の

健も門ゑの翁なり此集撰む時物ゑ〳〵りホの句ゑくゑ〳〵とく
粽結〳〵の句を他して入侍つる
去来曰凡吟ゑ時ゑ風あり風ゑ必変ず是自然のすこ
先師ゑ常よく見ゑ事一風にゑくとゑまるまで事を
示し侍つるたゑひ先師の風なりとも一風にゑつて変化
ゑ〳〵ゑ御ゑ先師ゑ〳〵ゑたゑ〳〵
杜年曰発句ゑ音意ハいゑん去来曰蕉句ハ人のゑ〳〵ゑと
感ゑるゑ〳〵ゑまゑ〳〵と云ハ事須也ゑまゑ〳〵ゑと
い〳〵ゑ又ゑ次ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ〳〵ゑ下也
杜年曰蕉句ゑ附句の境ハいゑん去来曰七情万景ゑ〳〵に

面るをよる發句あり附句ハ常なりたとへハ雪の梅をとり
[illegible]を發句ハ[illegible]雪の月を送るとりふを
發句也杜年曰公ハ面るをハ皆発句なるつゆ吉事日ハ[illegible]
發句ハなるを成しぬるありたとへ

つき出しや樋の流れのひきの音　好春

此句を先師の古池の蛙と同しやうにおもふるへき事
[illegible]く[illegible]なし[illegible]もとより興まあしむ
[illegible]句ハ[illegible]
野明曰句ハさびをいふる物なり去来曰さびハ句の姿也
閑寂なる句をいふるあしたたとへハ老人の甲冑を帯し
戦場を働き錦繡をかさり侍女を侍りても老の姿をうしな
ハるる句にも静なる句にもなりたとへ

花ちるや白きかしらをつきあてる

先師曰さび色よくあしかるべし
野明曰句の位ときいふる物も[illegible]去来曰うたも又一句をあく

郊の花[illegible]たる[illegible]園の門

先師曰句の位最尊しとなり去来曰年竟句位を
格のうるきにあり句中ハ理屈をいひ或ハ物をたとへ或ハ
あしらふる発句ハ位[illegible]
野明曰句ハ[illegible]細[illegible]ハいふるもよしなり去来曰去[illegible]

ハ哀なる句あり細なる句あり仏法をとりハ
句ハ姿あり細なる句ハ心あり是も證句とあげて
いとく

十畳ばかり小粒なりぬ秋乃風

先師曰此句去年ありあるを
あらためて余吾の海

先師曰此句細なりと評し給ひしとも
去来曰悪してさひ俗細なる事ハ以心傳心なるべし
唯先師の評ばあけて数るばかり化来たりて明むべし
先師近化乃年深川を出給ふとき跋涉曰をいふに

やはり今のとく俗〳〵俗〳〵なる世や先師曰去来〳〵今の風
なるべし〳〵ゐ七年もるを来〳〵ハ又一変あるべしとなり刻
今年素堂子洛の人ゐ俗〳〵ゐ曰蕉翁の遺風天下に
満て衆く変ず〳〵ゐ時いとしたる吾ゐとろろさ〳〵を同〳〵う
〳〵て我と吟今〳〵て一ゐの新風を興りせんとゐり去来答云
先生の言かゝ〳〵けなく悦ひ俗るゐ予も兼ゐ此思ひるゐ
あゝゐ幸ゐ先生を〳〵〳〵ゐたとゐ〳〵二三の新風を起さい
おとゝ〳〵く八一度天下ゐ人をたとろうせん志ゐとも世波
光の波日〳〵ちかゝるゐり貪を風雅ゐ遊ふ事ゐ紀いとゐも
なゝゐゐ唯俗ゐ多ゐ為ひ俗るゐゐとゝ中素堂ゐ

先師の古友なる博賢士の人なり名は世に傳名
なる〜近来出版せらるゝ詩文いづれも又いづれも
吐出せるまんもの如きいとゝ本意なき事なるを

於暮雨巷　嘘居士一音書

大尾

太來抄跋

崑岡之璞非人採之則誰知璞之爲玉乎一
日先生弄二三子游焉得諸幽蘭之下琢
而磨之皓〻乎世所謂玉鏡也使對之者心
在塵埃之外則去末之功至是可謂粲輝千
歳矣吾徒愉快其在於斯

井士朗

安永四年乙未三月

皇都書林

新椹木町二条上ル　井筒屋庄兵衛
堀川錦小路上ル　西村市郎右衛門
寺町松原上ル　辻井吉右衛門

知新齋藏版書目　京都寺町松原上ル處　辻井吉右衛門

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 西溟餘稿 大潮著 文之部 | 三冊 | 西谷名目首書 | 四冊 | 部類現葉和歌集 | 十六冊 |
| 同詩之部 同右 | 二冊 | 辨天利益和談鈔 | 五冊 | 桐火桶 定家卿 | 二冊 |
| 松浦詩集 同右 | 三冊 | 日蓮大御傳記 | 十二冊 | 拾遺謠百番 | 廿冊 |
| 四書白文 | 三冊 | 唯識義章 | 十二冊 | 上懸小枕謠百番 | 四冊 |
| 同字引 小本 | 一冊 | 同義林章 | 二冊 | 下懸小枕謠百番 | 四冊 |
| 山海經 | 七冊 | 魚山蠹芥集 | 一冊 | 同外百番 | 四冊 |
| 李嶠雜詠集 | 二冊 | 同南山進流 | 一冊 | 拾玉用文室箱 | 一冊 |
| 唐僧詩選 | 二冊 | 聲明系譜 | 一冊 | 女初學用文章 | 二冊 |
| 千家詩首書 | 二冊 | 梵書朴筆手鑑 | 二冊 | 長者教 | 一冊 |

三體詩歌留多　箱入

廣益和玉篇　一冊
書翰諺解　一冊
局方發揮　一冊
察病指南　三冊
修養編　四冊
俳諧去來抄　尾張曉雲先生訂正　東奥門人吾溟校　三冊
同蕉翁遺書白砂人集　右同門人臥央校　一冊
同許六問　右同門人白圖亜満仁校　三冊
同ぬさふくろ　右同門人士朗都貞著　一冊

聖一國師法語　一冊
施餓鬼分解　一冊
六祖法宝壇經　一冊
觀經厭欣鈔　三冊
往生要集和解　八冊
順禮手引案内　一冊
京都繪圖　一冊
唐詩印譜　雲花園篆刻　一冊
俳諧横の巫　士朗撰　一冊

南海治亂記　十八冊
商賈往來　一冊
今川腰越　一冊
實語教　一冊
子昂赤壁賦　石摺真書　一冊